

SNSアカウント登録におけるSMS認証の課題

SNSのアカウント登録に際して、SMS認証を用いている事業者は現にあるところ、不正に取得した携帯電話番号、本人確認がなされていないSMS機能付きデータ通信専用SIMの電話番号、海外の電話番号が認証に用いられていたり、SMS認証代行業者を利用して登録がなされている実態があり、SMS認証による「本人確認」では、真の利用者の特定に課題がある。

SMS認証に用いられている電話番号

不正に取得した電話番号

本人確認書類の券面の偽変造による不正契約等により携帯電話をだまし取る詐欺や、自己名義の携帯電話を他人に譲渡するなどの携帯電話不正利用防止法違反行為により不正に取得した電話番号を使用して、SMS認証が行われている実態。

【課題】

- 本人確認書類が偽変造されていた場合、真の利用者（被疑者）の特定は困難
- 匿名性の高いSNSを利用して譲渡が行われていた場合、真の利用者（被疑者）の特定は困難

携帯電話に関連する事件の検挙状況

詐欺 (携帯電話契約)		携帯電話不正利用 防止法違反	
R6		R6	
検挙件数	検挙人員	検挙件数	検挙人員
210	194	26	22

SMS機能付きデータ通信専用SIM

SNS型投資・ロマンス詐欺に利用されたSNSアカウントに紐付けられた電話番号の中には、SMS機能付きデータ通信専用SIMの電話番号が用いられている実態があり、本人確認がなされていないものを確認。

【課題】

- 本人確認を実施していない事業者については、本人確認記録がないため、利用者（被疑者）の特定は困難

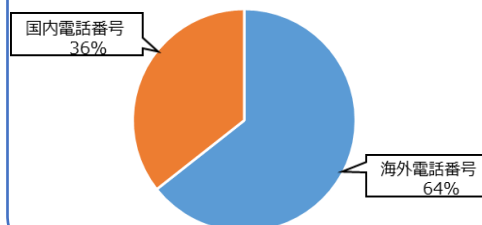


海外電話番号

SNS型投資・ロマンス詐欺に利用されたSNSのアカウントに紐付けられた電話番号を対象にした調査(調査期間 R6年4~9月)では、把握できた電話番号1,485件のうち956件(約64%)が海外電話番号を用いてSMS認証が行われている実態。

【課題】

- 利用者の特定のためには、海外電話番号を管理する海外事業者に照会をする必要があるが、回答を得られるまでの期間や回答が得られるかについて課題あり。

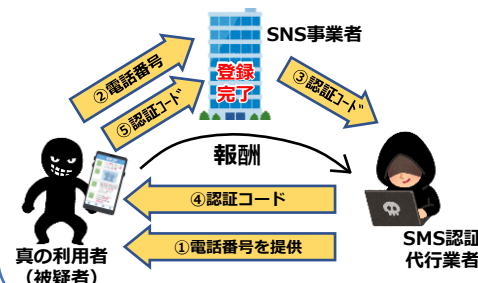


SMS認証代行業者の番号

アカウント登録時、真の利用者（被疑者）に自己が管理する電話番号と認証コードを提供し、真の利用者が本人確認（SMS認証）をすり抜けることを可能にさせる「SMS認証代行」が存在。

【課題】

- SMS認証代行業者を特定出来たとしても、真の利用者（被疑者）の特定は困難
- SMS認証代行業者の特定すら困難な場合あり



今後の検討に対する警察としての要望

SNSアカウントの登録時にSMS認証を実施したとしても、不正な方法で取得された携帯電話番号の利用や本人確認が不要なSMS機能付きデータ通信専用SIMの利用等により、SNSアカウントに紐付く携帯電話番号の真の利用者にたどりつくことは困難なのが実態であり、匿名・流動型犯罪グループは、こうした手法によりその匿名性を担保。

SNSアカウントの本人確認の厳格化のみで全てが解決するわけではないが、アカウント開設時に公的個人認証を求めたり、本人確認を行った国内電話番号の登録を求めたりすることや、SMS機能付きデータ通信専用SIM契約時の本人確認義務付けに関して検討を進めるなどの対策を行う必要があるのではないか。